

2024 年度
データサイエンス+R プログラム
(基礎・応用基礎)
自己点検・評価報告書

0、対象科目について

基礎レベル、応用基礎レベルともに対象となる科目は以下の通りである。なお、本報告書は公開を前提にしているため、数値については、クラスごとに集計するのではなく、プログラム対象科目をまとめて集計している。

<基礎>

情報技術と社会

情報倫理と情報技術

IR18-AE114 Data literacy for research design

Introduction to Experimentation

Professional Ethics

LAST 2010 Special Lecture (Science and Technology)

<応用基礎>

データサイエンス・AI 基礎

データエンジニアリング基礎

Foundations of Data Science and AI

Foundations of Data Engineering

1、プログラムの履修・修得状況

1) 評価の観点

当該項目は、展開している科目の受講者数・成績評価（習得状況）から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2024 年度までの履修者数・修得者数の状況は以下の通りである。

<基礎>

<基礎レベル>	2022年度			2023年度			2024年度		
科目名	履修者数	修得者数	修得率	履修者数	修得者数	修得率	履修者数	修得者数	修得率
情報技術と社会	1057	889	84.1%	950	810	85.3%	789	662	83.9%
情報倫理と情報技術	436	411	94.3%	449	432	96.2%	424	406	95.8%
IR18-AE114 Data literacy for research design	34	29	85.3%	12	10	83.3%	16	10	62.5%
Introduction to Experimentation	62	52	83.9%	66	50	75.8%	67	58	86.6%
Professional Ethics	59	53	89.8%	70	67	95.7%	75	70	93.3%
LAST2010 Special Lecture(Science and Technology)				23	21	91.3%	19	19	100.0%
Algorithm and Programming * 2023以降はなし	55	52	94.5%						
Social Change With AI * 2023以降はなし	16	14	87.5%						
合計	1719	1500	87.3%	1570	1390	88.5%	1390	1225	88.1%

基礎レベルの履修者数は、2023 年度の 1570 名から 180 名減の 1390 名となった。昨今のデータサイエンスへのニーズを踏まえ、「情報技術と社会」について、1 クラス増し開講したが、結果的には履修者数減となった。クラス別で履修者数にばらつきが見受けられるため、履修については学生の時間割や基幹時間割に左右されると考えられる。

<応用基礎>

<応用基礎レベル>	2022年度			2023年度			2024年度		
科目名	履修者数	修得者数	修得率	履修者数	修得者数	修得率	履修者数	修得者数	修得率
データサイエンス・AI基礎				199	189	95.0%	1396	1247	89.3%
データエンジニアリング基礎				201	185	92.0%	1398	1266	90.6%
Foundations of Data Science and AI				46	44	95.7%	97	90	92.8%
Foundations of Data Engineering				48	46	95.8%	98	95	96.9%
合計				494	464	93.9%	2989	2698	90.3%

応用基礎レベルの受講者は、受講登録選外者数の多さからも対策を講じた（2024年度秋学期開講の受講定員を400名から1000名へ増加）ことから、2023年度の494名から2989名まで増加した。当科目は「オンデマンド形式」であり、「データサイエンス・AI基礎」「データエンジニアリング基礎」を合わせた申請数が約9000名であったことから、学生の多様な受講スタイルへのニーズが伺える。

3) 課題・次年度方針

引き続き、履修者数のモニタリングをはかる。また、受講者減への対応措置として、これまで「データサイエンス+Rプログラム」は「学習要覧」を用いて広報をしてきたが、お知らせ配信やガイダンスを行うなど、周知について強化を検討する。

2、学修成果

1) 評価の観点

当該項目は、授業アンケート（Q6）・成績評価（習得状況）から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2024年度の授業アンケート（Q6）「あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか」ならびに成績評価（習得状況）の結果は以下の通りとなった。

<基礎>

授業アンケート（Q6 あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか）	2022年度		2023年度		2024年度	
回答	度数	比率	度数	比率	度数	比率
達成できた(Fully)	64	15.0%	61	13.0%	83	17.8%
ある程度達成できた(To a degree)	200	46.9%	242	51.6%	235	50.5%
どちらともいえない(Neither)	104	24.4%	107	22.8%	85	18.3%
あまり達成できなかった(Not very much)	32	7.5%	32	6.8%	37	8.0%
達成できなかった(Not at all)	8	1.9%	8	1.7%	8	1.7%
到達目標を知らない(I do not know the student attainment objectives)	18	4.2%	19	4.1%	17	3.7%
総計	426	100.0%	469	100.0%	465	100%

＜基礎レベル＞	2022年度	2023年度	2024年度
科目名	修得率	修得率	修得率
情報技術と社会	84.1%	85.3%	83.9%
情報倫理と情報技術	94.3%	96.2%	95.8%
IR18-AE114 Data literacy for research design	85.3%	83.3%	62.5%
Introduction to Experimentation	83.9%	75.8%	86.6%
Professional Ethics	89.8%	95.7%	93.3%
LAST2010 Special Lecture(Science and Technology)		91.3%	100.0%
Algorithm and Programming * 2023以降はなし	94.5%		
Social Change With AI * 2023以降はなし	87.5%		
合計	87.3%	88.5%	88.1%

基礎レベルについて、「あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか」という質問に対して、「達成できた」と回答した学生が17.8%、「ある程度達成できた」と回答した学生が50.5%であり、合計で68.3%の学生が到達目標を達成できたと回答している。成績評価についても、有効評価が80～90%前後で推移している。

＜応用基礎＞

授業アンケート (Q6 あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか)	2022年度		2023年度		2024年度	
回答	度数	比率	度数	比率	度数	比率
達成できた(Fully)			16	29.1%	119	28.2%
ある程度達成できた(To a degree)			24	43.6%	215	50.9%
どちらともいえない(Neither)			13	23.6%	49	11.6%
あまり達成できなかった(Not very much)			1	1.8%	21	5.0%
達成できなかった(Not at all)			0	0.0%	6	1.4%
到達目標を知らない(I do not know the student attainment objectives)			1	1.8%	12	2.8%
総計			55	100.0%	422	100%

＜応用基礎レベル＞	2022年度	2023年度	2024年度
科目名	修得率	修得率	修得率
データサイエンス・AI基礎		95.0%	89.3%
データエンジニアリング基礎		92.0%	90.6%
Foundations of Data Science and AI		95.7%	92.8%
Foundations of Data Engineering		95.8%	96.9%
合計		93.9%	90.3%

応用基礎レベルについて、「あなたはこの授業の到達目標をどの程度達成しましたか」という質問に対して、「達成できた」と回答した学生が28.2%、「ある程度達成できた」と回答した学生が50.9%であり、合計で79.1%の学生が到達目標を達成できたと回答している。成績評価についても、有効評価が90%前後で推移している。

3) 課題・次年度方針

基礎レベル、応用基礎レベルともにプログラムの学習成果としては一定の水準にあると考えられる。

しかしながら応用基礎レベルの成績評価の有効評価率が一般的な科目と比べて高い点は引き続き課題として追及をはかる。

3、学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

1) 評価の観点

当該項目は、独自アンケート（Q3）・成績評価（習得状況）から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2024年度の独自アンケート（Q3）の結果、ならびに成績評価（習得状況）は以下の通りである。

<基礎>

独自アンケート（Q3_この授業の内容が身についたか？）	2022年度		2023年度		2024年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率
身についた	196	14.2%	113	13.7%	9	18.8%
ある程度身についた	858	62.1%	500	60.7%	30	62.5%
どちらともいえない	253	18.3%	155	18.8%	6	12.5%
あまり身につかなかった	60	4.3%	41	5.0%	1	2.1%
身につかなかった	15	1.1%	15	1.8%	2	4.2%
総計	1382	100%	824	100%	48	100%

<基礎レベル>	2022年度	2023年度	2024年度
科目名	修得率	修得率	修得率
情報技術と社会	84.1%	85.3%	83.9%
情報倫理と情報技術	94.3%	96.2%	95.8%
IR18-AE114 Data literacy for research design	85.3%	83.3%	62.5%
Introduction to Experimentation	83.9%	75.8%	86.6%
Professional Ethics	89.8%	95.7%	93.3%
LAST2010 Special Lecture(Science and Technology)		91.3%	100.0%
Algorithm and Programming * 2023以降はなし	94.5%		
Social Change With AI * 2023以降はなし	87.5%		
合計	87.3%	88.5%	88.1%

データサイエンス+R プログラムでは、受講生に対し、独自でアンケートを実施している。基礎レベルにおける独自アンケート（Q3_この授業の内容が身についたか？）について、2023年度 74.4%、2024年度 81.3%の学生が肯定的な回答を示している。

また、成績の習得率においても、科目の履修者数が起因しややばらつきがあるものの、凡そ 80～90%で推移している。

<応用基礎>

独自アンケート（Q3_この授業の内容が身についたか？）	2022年度		2023年度		2024年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率
身についた			109	24.2%	45	29.4%
ある程度身についた			294	65.3%	75	49.0%
どちらともいえない			33	7.3%	15	9.8%
あまり身につかなかった			11	2.4%	14	9.2%
身につかなかった			3	0.7%	4	2.6%
総計			450	100%	153	100%

＜応用基礎レベル＞	2022年度	2023年度	2024年度
科目名	修得率	修得率	修得率
データサイエンス・AI基礎		95.0%	89.3%
データエンジニアリング基礎		92.0%	90.6%
Foundations of Data Science and AI		95.7%	92.8%
Foundations of Data Engineering		95.8%	96.9%
合計		93.9%	90.3%

応用基礎レベルにおける独自アンケート（Q3_この授業の内容が身についたか？）について、2023年度 89.5%、2024年度 78.4%の学生が肯定的な回答を示している。数値が訳約 10%程度減少しているものの、これは「数理・データサイエンス AI 認定制度「データサイエンス+R プログラム」（応用基礎）科目受講登録選外者増大に伴う対応措置の総括について」（2025年3月17日教学委員会）にて報告した口述課題を課したことが影響していると考えられる。また、成績の習得率においても、凡そ 90%で推移している。

3) 課題・次年度方針

基礎レベル、応用基礎レベルともにプログラムの学習成果としては一定の水準にあると考えられる。

2024年度は独自アンケートの回答率が低くなってしまった。これは授業の最終週で実施していたアンケートを授業終了後になってしまったことが原因である。次年度は授業期間に実施できるよう準備をはかる。

4、学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

1) 評価の観点

当該項目は、独自アンケート（Q2）から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2024年度までの独自アンケート（Q2）の結果は以下の通りである。

＜基礎＞

独自アンケート（Q2_この授業を他の学生にも薦めたいと思いますか？）	2022年度		2023年度		2024年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率
10（大いに推奨する）	146	10.3%	78	9.5%	15	31.3%
9	57	4.0%	36	4.4%	1	2.1%
8	229	16.2%	127	15.4%	8	16.7%
7	301	21.3%	165	20.0%	9	18.8%
6	221	15.7%	122	14.8%	6	12.5%
5	246	17.4%	144	17.5%	3	6.3%
4	79	5.6%	43	5.2%	3	6.3%
3	50	3.5%	50	6.1%	0	0.0%
2	29	2.1%	29	3.5%	1	2.1%
1	20	1.4%	12	1.5%	1	2.1%
0（推奨しない）	33	2.3%	18	2.2%	1	2.1%
総計	1411	100%	824	100%	48	100%

基礎レベルにおいて、独自アンケート（Q2_この授業を他の学生にも薦めたいと思いますか？）の結果について、肯定的な回答（10～6）の比率を確認すると、2023年度は64.1%、2024年度は81.3%となっており、各年度推奨度は総じて高い結果となっている。

<応用基礎>

独自アンケート（Q2_この授業を他の学生にも薦めたいと思いますか？） 回答	2022年度		2023年度		2024年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率
10（大いに推奨する）			167	37.1%	36	23.5%
9			36	8.0%	17	11.1%
8			95	21.1%	35	22.9%
7			72	16.0%	25	16.3%
6			28	6.2%	4	2.6%
5			30	6.7%	12	7.8%
4			12	2.7%	4	2.6%
3			6	1.3%	12	7.8%
2			3	0.7%	1	0.7%
1			1	0.2%	0	0.0%
0（推奨しない）			0	0.0%	7	4.6%
総計			450	100%	153	100%

応用基礎レベルにおいて、独自アンケート（Q2_この授業を他の学生にも薦めたいと思いますか？）の結果について、肯定的な回答（10～6）の比率を確認すると2023年度は88.4%、2024年度は76.5%となっており、各年度推奨度は総じて高い結果となっている。

3）課題・次年度方針

引き続き、受講生の推奨度が上がるよう、プログラム運営、授業運営に努めていく。
なお、2024年度は独自アンケートの回答率が低くなってしまった。これは授業の最終週で実施していたアンケートを授業終了後になってしまったことが原因である。次年度は授業期間に実施できるよう準備をはかる。

5、全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

1）評価の観点

当該項目は、自己点検評価のため定めた目標値の達成状況から自己点検評価を行う。

2）現状と評価

自己点検評価のため定めた目標値の達成状況は以下の通りである。

<基礎>

2024年度現在の目標達成状況は以下の通りである。

<参考 自己評価 目標値 基礎>	2022年度				2023年度				2024年度			
	収容定員	履修率	目標値	差分	履修率	目標値	差分	履修率	目標値	差分	履修率	目標値
自己評価 目標値 基礎（履修率）	31,933	5.4%	5.2%	0.2%	10.3%	10.4%	-0.1%	14.7%	16.2%	-1.5%		
*年度合計履修率でモニタリング												

自己点検評価上の目標は、収容定員に対し、履修率が2022年度5.4%、2023年度で10.4%、2024年度16.2%である。いずれも累積履修者が分子である。

2022年度は5.4%、2023年度は10.3%で推移しており、2024年度は14.7%となった。目標である

16.2%には満たないものの、近い数字となった。

<応用基礎>

2024 年度現在の目標達成状況は以下の通りである。

以下、全体	2023年度					2024年度				
学部	収容定員	履修者数	履修率	目標値	差分	履修者数	履修率	目標値	差分	
<応用基礎レベル／学部別集計> 合計	31,533	494	1.57%	1.40%	0.17%	2989	11.0%	7.60%	6.25%	

自己点検評価上の目標は、収容定員に対し、履修率が 2023 年度で 1.40%、2024 年度で 4.80% である。いずれも累積履修者が分子である。

2023 年度は 1.57% で目標達成、2024 年度は定員増加もあり、11.0% と目標を大きく上回る結果となった。

3) 課題・次年度方針

課題は基礎レベルにおける受講者増である。前述したが、受講者減への対応措置として、これまで「データサイエンス+R プログラム」は「学習要覧」を用いて広報をしてきたが、まずはお知らせ配信やガイダンスを行うなど、周知について強化を検討する。応用基礎レベルは引き続きこの展開を維持する。

6、教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

当該項目は完成年度を目途に外部評価にて評価する。

7、産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

当該項目は完成年度を目途に外部評価にて評価する。

8、数理・データサイエンス・AI を「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること

1) 評価の観点

当該項目は、授業アンケート（Q4、Q7）から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2024 年度の授業アンケート（Q4）「あなたは、この授業で自主的な学習への意欲を促されましたか」Q7「この授業は、あなたの学びにとって、どの程度役立ちましたか」についての結果は以下の通りとなった。

<基礎>

授業アンケート（Q4_あなたは、この授業で自主的な学習への意欲を促されましたか） 回答	2022年度		2023年度		2024年度	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率
そう思う(Yes)	82	19.2%	89	19.0%	108	23.2%
ある程度そう思う(To a degree)	175	41.1%	202	43.1%	193	41.5%
どちらともいえない(Neither)	99	23.2%	111	23.7%	102	21.9%
あまりそう思わない(Not very much)	48	11.3%	40	8.5%	42	9.0%
そう思わない(No)	22	5.2%	27	5.8%	20	4.3%
総計	426	100.0%	469	100.0%	465	100%

授業アンケート (Q7 この授業は、あなたの学びにとって、どの程度役立ちましたか。)	2022年度		2023年度		2024年度	
回答	度数	比率	度数	比率	度数	比率
役立った(Useful)	139	32.6%	165	35.2%	195	41.9%
ある程度役立った(Slightly useful)	218	51.2%	211	45.0%	193	41.5%
どちらともいえない(Neither)	49	11.5%	64	13.6%	59	12.7%
あまり役立たなかった(Not very useful)	12	2.8%	21	4.5%	10	2.2%
役立たなかった(Not useful at all)	8	1.9%	8	1.7%	8	1.7%
総計	426	100.0%	469	100.0%	465	100%

基礎レベルについて、「あなたは、この授業で自主的な学習への意欲を促されましたか」という質問に対して、「そう思う」と回答した学生が 23.2%、「ある程度そう思う」と回答した学生が 41.5%であり、合計で 64.7%の学生が肯定的な回答をしている。

また、「この授業は、あなたの学びにとって、どの程度役立ちましたか」という質問に対して、「役立った」と回答した学生が 41.9%、「ある程度役だった」と回答した学生が 41.5%であり、合計で 83.4%の学生が肯定的な回答をしている。

<応用基礎>

授業アンケート (Q4 あなたは、この授業で自主的な学習への意欲を促されましたか)	2022年度		2023年度		2024年度	
回答	度数	比率	度数	比率	度数	比率
そう思う(Yes)			16	29.1%	136	32.2%
ある程度そう思う(To a degree)			27	49.1%	174	41.2%
どちらともいえない(Neither)			12	21.8%	70	16.6%
あまりそう思わない(Not very much)			0	0.0%	28	6.6%
そう思わない(No)			0	0.0%	14	3.3%
総計			55	100.0%	422	100%

授業アンケート (Q7 この授業は、あなたの学びにとって、どの程度役立ちましたか。)	2022年度		2023年度		2024年度	
回答	度数	比率	度数	比率	度数	比率
役立った(Useful)			21	38.2%	180	42.7%
ある程度役立った(Slightly useful)			28	50.9%	171	40.5%
どちらともいえない(Neither)			6	10.9%	43	10.2%
あまり役立たなかった(Not very useful)			0	0.0%	17	4.0%
役立たなかった(Not useful at all)			0	0.0%	11	2.6%
総計			55	100.0%	422	100%

応用基礎レベルについて、「あなたは、この授業で自主的な学習への意欲を促されましたか」という質問に対して、「そう思う」と回答した学生が 32.2%、「ある程度そう思う」と回答した学生が 41.2%であり、合計で 73.4%の学生が肯定的な回答をしている。

また、「この授業は、あなたの学びにとって、どの程度役立ちましたか」という質問に対して、「役立った」と回答した学生が 42.7%、「ある程度役だった」と回答した学生が 40.5%であり、合計で 83.2%の学生が肯定的な回答をしている。

3) 課題・次年度方針

多くの学生が学ぶことへの意欲を感じ、また学びが役立ったと回答していることから、高い水準で数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を感じていると考えられる。引き続き、数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を継続的に感じさせられるプログラム展開を目指す。

9、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること

1) 評価の観点

当該項目は、授業アンケート（Q10、Q11）、FD の実施状況から自己点検評価を行う。

2) 現状と評価

2024 年度の授業アンケート（Q10）「この授業内容や課題・小テストの分量についてどのように感じましたか」 Q11「この授業では、質問や課題・小テストに対する適切なフィードバック（回答・解説・コメント等）が十分に行われていましたか」についての結果は以下の通りとなった。

< 基礎 >

授業アンケート（Q10 この授業内容や課題・小テストの分量についてどのように感じましたか）		2022年度		2023年度		2024年度	
回答		度数	比率	度数	比率	度数	比率
多かった(Too much)		27	6.3%	34	7.2%	60	12.9%
やや多かった(A little too much)		64	15.0%	75	16.0%	92	19.8%
適切な量であった(Appropriate)		304	71.4%	344	73.3%	289	62.2%
やや少なかった(Slightly little)		21	4.9%	9	1.9%	10	2.2%
少なかった(Little)		10	2.3%	7	1.5%	14	3.0%
総計		426	100.0%	469	100.0%	465	100%
授業アンケート（Q11 この授業では、質問や課題・小テストに対する適切なフィードバック（回答・解説・		2022年度		2023年度		2024年度	
回答		度数	比率	度数	比率	度数	比率
そう思う(Yes)		85	20.0%	79	16.8%	106	22.8%
ある程度そう思う(To a degree)		151	35.4%	165	35.2%	169	36.3%
どちらともいえない(Neither)		116	27.2%	148	31.6%	122	26.2%
あまりそう思わない(Not very much)		47	11.0%	45	9.6%	44	9.5%
そう思わない(No)		27	6.3%	32	6.8%	24	5.2%
総計		426	100.0%	469	100.0%	465	100%

基礎レベルについて、「この授業内容や課題・小テストの分量についてどのように感じましたか」という質問に対して、「適切な量であった」と回答した学生が 62.2%と高い水準を維持している。

また、「この授業では、質問や課題・小テストに対する適切なフィードバック（回答・解説・コメント等）が十分に行われていましたか」という質問に対して、「そう思う」と回答した学生が 22.8%、「ある程度そう思う」と回答した学生が 36.3%であり、合計で 59.1%の学生が肯定的な回答をしている。

< 応用基礎 >

授業アンケート（Q10 この授業内容や課題・小テストの分量についてどのように感じましたか）		2022年度		2023年度		2024年度	
回答		度数	比率	度数	比率	度数	比率
多かった(Too much)				0	0.0%	33	7.8%
やや多かった(A little too much)				4	7.3%	79	18.7%
適切な量であった(Appropriate)				46	83.6%	300	71.1%
やや少なかった(Slightly little)				5	9.1%	8	1.9%
少なかった(Little)				0	0.0%	2	0.5%
総計				55	100.0%	422	100%
授業アンケート（Q11 この授業では、質問や課題・小テストに対する適切なフィードバック（回答・解説・		2022年度		2023年度		2024年度	
回答		度数	比率	度数	比率	度数	比率
そう思う(Yes)				17	30.9%	106	25.1%
ある程度そう思う(To a degree)				11	20.0%	124	29.4%
どちらともいえない(Neither)				15	27.3%	92	21.8%
あまりそう思わない(Not very much)				12	21.8%	50	11.8%
そう思わない(No)				0	0.0%	50	11.8%
総計				55	100.0%	422	100%

応用基礎レベルについて、「この授業内容や課題・小テストの分量についてどのように感じましたか

か」という質問に対して、「適切な量であった」と回答した学生が 71.1%と高い水準を維持している。

また、「この授業では、質問や課題・小テストに対する適切なフィードバック（回答・解説・コメント等）が十分に行われていましたか」という質問に対して、「そう思う」と回答した学生が 25.1%、「ある程度そう思う」と回答した学生が 29.4%であり、合計で 54.5%の学生が肯定的な回答をしており、他と比べるとやや低い数値となっている。当該授業は「オンデマンド形式」であり、双方向性の担保には工夫を凝らしている。具体的には、2024 年度は TA が質問を受付、待機を行う、質問が多かった内容は掲示板にて Q&A の形式で掲載するなどを実施したが、引き続き双方向性の担保については追及が必要である。

<FD の実施>

次期教養教育改革を議論するタスクフォースにおいて、特に「応用基礎レベル」のオンデマンド講義において、どのように教育の質を担保し、効果的な授業展開ができるのか議論を行った。結果的に、TA を質問受付、待機時間を設け、双方向性を担保すること、Q&A の掲示板を日々更新することなどのアイデアが出され、秋学期の授業において展開をはかった。

3) 課題・次年度方針

引き続き、本年の展開内容を踏襲し、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業運営を目指していく。

10、その他（年度固有の事象などがあれば記載）

10-1 オープンバッチの展開について

「データサイエンス+R プログラム」では、オープンバッチネットワークへ加盟し、修了生にオープンバッチを発行している。ここではオープンバッチの発行状況（＝プログラム修了者数）について、記載する。

1) 評価の観点

特になし

2) 現状と評価

データサイエンス+R プログラムは 2023 年度より修了者を輩出している。2023 年度は 15 名となったが、2024 年度は 71 名に増加した。累計修了者は 86 名となった。

3) 課題・次年度方針

引き続き、修了者数のモニタリングをはかる。また、1、プログラムの履修・修得状況でも記載しているが、受講者減への対応措置として、これまで「データサイエンス+R プログラム」は「学習要覧」を用いて広報をしてきたが、お知らせ配信やガイダンスを行うなど、周知について強化を検討する。

以上